

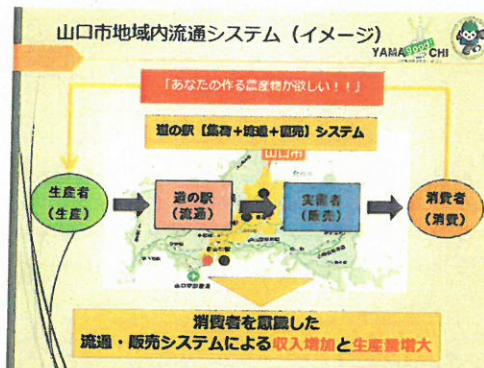
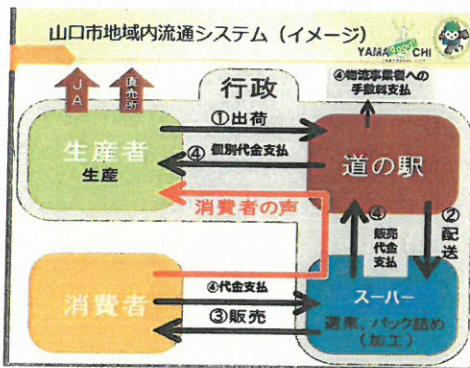
# 報道資料

平成31年2月15日

1 件名	～山口市の地域特性を活かした「みんながもうかる農業」創生セミナー～ 市内の新たな販路を提案する 生産者が自ら選択・決定できる流通システムの御紹介
2 日時	平成31年2月25日（月） 午後1時30分～午後4時30分
3 会場	セントコア山口（山口市湯田温泉3-2-7）
4 内容	<p>「農業は自分の代で終わり。先祖代々の農地を農地として守っていききたい気持ちはあるが、農業だけでは食べていけない現状、子や孫に農業を継いでくれとはよう言わん。」 (市内御年配の生産者のお声)</p> <p>担い手の高齢化（本市担い手平均年齢 69.7 歳、山口県全体平均年齢 70.3 歳：全国平均より高い水準で推移）、後継者不足という積年の課題に加え、主食用米の消費減退、国による産地間競争・地域間競争の激化など、農業を取り巻く現状は、大変厳しく、現状を見守るだけでは、農業の将来は見通せない状況となっています。</p> <p>こうした現状を踏まえ、平成28年度から山口市もうかる農業創生事業を創設し、農業所得向上・生産量増大・農業による雇用創出を目指し、農業の商流（生産・流通・販売・消費）に着目した総合的な取り組みを展開いたしているところをごさいます。昨年7月からは、「流通」にスポットを当てた実証事業、これまで無かった市内を販路とする「山口市地域内流通システム」を、関係者の御協力・お力添えをいただきながら、実施いたしたところをごさいます。</p> <p>本セミナーでは、この「山口市地域内流通システム」の御紹介と実際の試験運用状況を御報告いたします。</p> <p>昨年7月からの実証運用開始以降、参加生産者の皆様から「月の売り上げが大幅に増加した！」「生産量・出荷量を増やす為、新たに農地を拡大した！」「生産量増大に向けた人手が欲しいので、(増収した分で)雇用したい。」そして「今農業が面白い！」とのお声をいただいております、農業の将来に、新たな可能性を感じているところをごさいます。</p> <p>本取り組み状況を広く発信・共有したいと考えておりますので、関係者の皆様の御協力・お力添えをいただくと幸いです。</p> <p>【添付資料】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・システムのメリット・・・1部</li><li>・セミナーチラシ・・・1部</li></ul>
5 問い合わせ	経済産業部 農林政策課 6次産業推進室担当：安村 TEL：083-934-2816 E-mail：n-seisaku@city.yamaguchi.lg.jp

山口市の地域特性を活かした「みんなが『もうかる農業』」を目指して

地域内の新たな販路「地商地産」の促進による、生産者が自ら選択・決定できる流通システムの提案  
～道の駅を人・もの（農産物）が集まる集出荷拠点とする地域内流通システム～



### 【システムのメリット】

#### ① 出荷作業時間の削減

これまで生産者が行っていたパック詰めを、スーパー側がパック詰めの作業場・スタッフを確保して行う為、収穫時のコンテナそのままの出荷が可能となり、出荷にかかる作業時間の大幅な削減が期待できる。

#### ② 全量買取による確実な収入の確保

生産者の育成・応援の視点での協力体制の構築により、生産者が出荷可能な時期に出荷できる量だけを全量買取いただくこととなり、天候不順、災害等による収穫量減少のリスクが回避でき、さらには出荷量に対する確実な収入を見込むことができる。

#### ③ 生産者の顔と産地が見える販売形態による生産者のブランド化

生産者の顔と産地が見える販売形態の導入により、消費者は、自身の趣向に応じた個別生産者や産地を選択した購入が可能となり、また生産者は、消費者から選ばれる立場となり、売上状況から自身の製品の評価を知ることができることから、より品質の高い農産物生産をお届けしようと生産意欲(モチベーション)を高められ、その効果として、生産者自身のブランド化の進展が期待できる。

#### ④ 道の駅への更なる「人・もの」の流れ、人流・物流の創出

上記①②のメリットを踏まえた道の駅を拠点とすることで、道の駅内の直売コーナー、市内中心部スーパー等へ出荷選択が可能となり、新たな人流・物流の創出が期待できる。

※1 これまで、個別生産者単独では対応が困難であった出荷先に対し、複数の小規模生産者が連携することで、出荷が可能。

※2 出荷にあたっては、JA共販、青果市場出荷約束分は減らさず、生産規模拡大大部分の出荷を条件とする。



【開店前からお客様の行列！】



【開店1時間で売り切れ続出！】



山口市の地域特性を活かした  
「みんなが『もうかる農業』創生セミナー」

道の駅を  
人・もの(農産物)が集まる  
集出荷拠点とする  
地域内流通システム

# 地域内の新たな販路を提案する、 生産者が自ら選択・決定できる 流通システムのご紹介

- 生産規模の拡大を考えている人
- 新しく農業を始めようとしている人
- 他、セミナーに興味がある人

入場無料

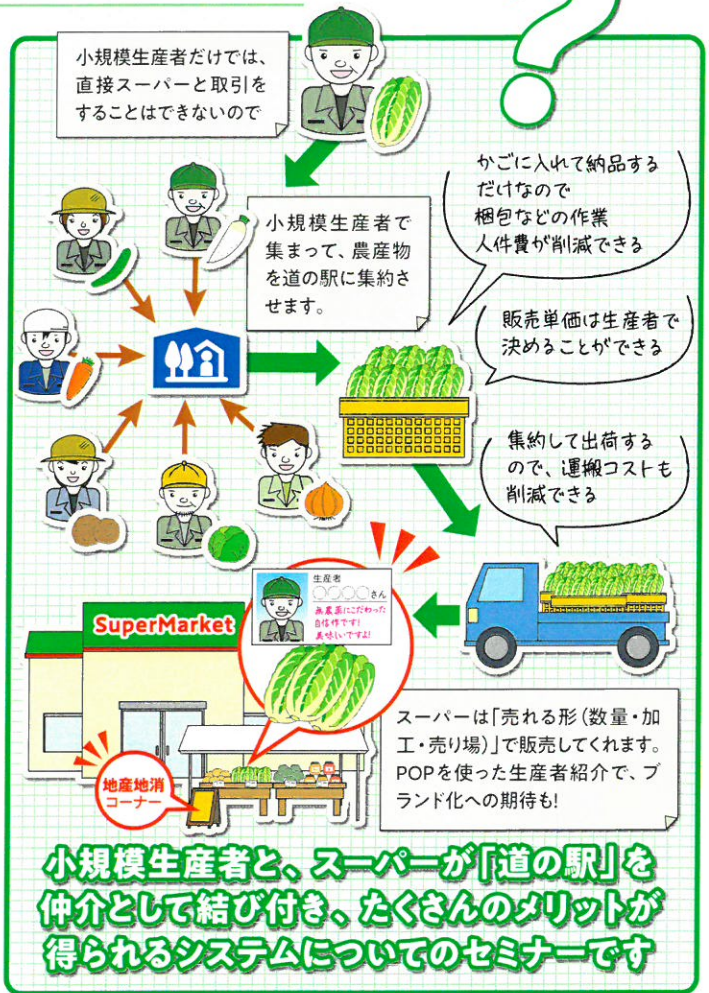
定員：50名  
※お申込先着順

平成31年

2月25日(月)

13時30分～16時30分

会場 セントコア山口  
〒753-0056 山口県山口市湯田温泉3-2-7



現在の農業を取り巻く環境は、担い手の高齢化・後継者不足という積年の課題に加え、主食用米の消費減退、国による米の生産調整の終了に伴う産地間競争・地域間競争の激化など、大きな転換期を迎えている状況といえます。

こうした状況を踏まえ、本市では、職業として成り立つ農業、将来子ども達に職業として目指される農業の確立に向け、平成28年度から「もうかる農業創出事業」を創設し、農業の商流(生産・流通・販売・消費)に着目した取り組みを展開しているところで、今回、この商流の中の「流通」にスポットを当てた実証事業、市内を販路とする「山口市地域内流通システム」の試験運用状況についてご報告いたします。

これまで個人生産者だけでは取引できなかった地域内の販路に対し、市内道の駅を拠点として複数の生産者が生産・出荷連携をすることで、新たな取引が可能となった本市の取り組み事例(実証運用状況)と今後の展望をご紹介します。新たな参加希望生産者を募集するなど、今後の市内生産者の皆様の農業経営に役立てていただくことを目的としています。

講師 浅川 芳裕 氏  
山口市もうかる農業創生事業  
アドバイザー



お申込み・  
お問合せ先

山口市農林政策課6次産業推進室

TEL: 083-934-2816 FAX: 083-934-2651 E-mail: n-seisaku@city.yamaguchi.lg.jp